

教科(科目)	書道 I	単位数(時数)	2単位(74)	学年(科)	1学年
使用教科書	教育出版『書道1』				
副教材等	なし				

1. 学習目標

書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。

2. 指導の重点

- ①教科書に掲載されている古典を鑑賞し、文学の変遷を書体の説明をする。そして、色々な形の書があることを理解し、認識させる。
- ②古典を学び基本的な運筆・用筆を体得し、創造力・創作能力を身につける。
- ③文字を使って様々な美しさを表現する。

3. 評価規準と評価方法

- 書への関心・意欲・態度
書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
 - 書表現の構想と工夫
書表現の諸要素を感受し、感性を働かせながら、自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。
 - 創造的な書表現の技能
創造的な書表現をするために、書の効果的な表現の技能を身に付け表している。
 - 鑑賞の能力
文字や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。
- <評価方法>
古典の特徴の理解度、課題清書の達成度、書道の基礎的知識の習得状況、学習態度及び作品制作への集中度などから総合的に評価する。

4. 学習アドバイス

- ①普通欠席は清書を必ず提出。
- ②書道用具は個人持ちが大原則。
- ③真面目に授業を受ける。
- ④書道関係の大学を希望する生徒へは2、3年次での受験対応を指示する。(担当：佐藤 三男)

月	単元・考査等	時数	主要学習領域	学習活動（指導内容）
4	導入	4	書写から書道へ さまざまな楷書	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科書写と芸術科書道の相違を説明する。 ・基本的な書道用語を理解できるようにする。
5	楷書の学習	6	九成宮醴泉銘 孔子廟堂 顔氏家廟碑 雁塔聖教序 牛橛造像記 鄭羲下碑	<ul style="list-style-type: none"> ・6種の楷書の古典を鑑賞する。 ・基本点画の用筆、運筆を理解できるようにする。 ・作者と時代背景について理解する。 ・倣書実技テスト
6	行書の学習	8	蘭亭序	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の成立、特徴を知る。 ・古典を鑑賞し、半切に臨書する。 ・用筆、運筆を習得できるようにする。 ・14字2行の半切作品の提出。
7	競書	6	新潟県競書大会 作品制作	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで学習した楷書と行書の中から、好きなものをひとつ選び、競書作品を完成する。
9	篆刻	4	自分の姓を白文で、 名を朱文で記す。	<ul style="list-style-type: none"> ・篆刻の指導と印の重要性を理解する。
10	漢字仮名交じりの書の学習	8	創作	<ul style="list-style-type: none"> ・筆、紙、墨等の工夫により、多様な表現ができることを理解する。 ・自分の好きな言葉を決めて、表現したいイメージ、全体構成を考える。 ・漢字と仮名を調和させる。
11	鑑賞	2	池田記念美術館鑑賞	<ul style="list-style-type: none"> ・作品の良さや美しさを味わうと共に鑑賞態度を身につける。
	隷書の学習	6	曹全碑	<ul style="list-style-type: none"> ・隷書の成立、特徴を知り、臨書する。 ・用筆、運筆、結構法を習得できるようにする。 ・5字1行の半切作品の提出。
12	仮名の学習	10	高野切第三種 関戸本古今和歌集 粘葉本和漢朗詠集	<ul style="list-style-type: none"> ・仮名の成立を知る。 ・単体と連綿の用筆・運筆法を習得できるようにする。 ・古典を鑑賞し、臨書する。
1 ・ 2	唐様及び和様の書の特徴とその学習	10	風信帖	<ul style="list-style-type: none"> ・日本人の書を三筆を中心とした臨書をする。 ・半折作品の提出・実技テスト
3	書道 I まとめと確認テスト	4	書道 I で学習した古典の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験

計 148 時間（48 分授業）